



らぶく La・BOOK

2月号

No.68

明科図書館の児童館との連携事業

「乳幼児向けおはなし会」

明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」にある明科図書館では、今年度より、同じ施設内の明科児童館と事業連携の一環として、月に一度、児童館に出



向いて乳幼児親子を対象としたおはなし会を開催しています。

絵探しの本やわらべ歌の本などを用意して、声を出したり体を動かしたり、ふれあい遊びをしたりと、親子で楽しく参加できるおはなし会になるよう取り組んでいます。毎回のように、お母さんの膝から飛び出して本に夢中になっているお子さんの姿が見られます。

静かに座っていなければならないおはなし会ではありません。明科地域の方に限らず、お子さんと一緒にぜひ一度ご参加ください。不定期で開催していますので、開催の日時については、明科児童館(62-2482)へお問い合わせください。



中央図書館

奮闘!? 調べもの日記(レファレンス)

有明演習地について

大正4年から昭和20年の終戦まで、有明村富田南原(現在の穂高有明)の一部桑畑・山蚕林を含む山



昭和10年頃の有明演習地風景

林原野は、松本歩兵第五十連隊の軍事演習地として使用されました。

総坪数45万余坪の広大な場所で、有明山を背に一面の原野が広がり、実

弾演習などにも適した一大演習場でした。近くには厩舎(しょうしゃ)が建てられ、主屋の兵舎が4棟、本部・厩舎・炊事場・医務室・酒保・衛兵所・営倉及び施設全般の管理にあたる主管所などの諸施設があり、屋根は寒気に強い能登の焼き瓦が使われました。初年兵はここで徹底的に鍛えられました。

実弾演習を行うときには赤旗が掲げられて危険を村民に知らせ、実弾射撃の音は遠くの里にも響いたそうです。

昭和20年当時の有明演習地兵舎正門



戦後の開拓により演習地は畑や田にかわり、今では豊かな農業地域や住宅地、山麓地域は穂高温泉郷として観光地に一変し、有明演習地の面影はありません。

<関係資料>

- 『穂高町誌 第3巻 歴史編下』 穂高町誌編纂委員会 1991年
- 『とよさと一豊里五十年のあゆみ』 豊里史編纂委員会 1995年
- 『長野県郷土部隊の記録』 百瀬宏/郷土出版社 1980年
- 『思い出のアルバム安曇』 上條為人/郷土出版社 1979年
- 『図説・安曇の歴史 下』 安曇歴史研究会/郷土出版社 1985年
- 『長野県民100年史 4』 郷土出版社 1984年
- 『B29 穂高・有明爆撃戦争体験を語る』 寺島美智子

私と図書館

(50代女性)

地域の図書館を利用して、かれこれ40数年になります。図書館は、2度の引越しを経て、現在は蔵書も増えて有り難いばかりです。

なぜ、長年利用させてもらえているかといえば、自宅と図書館の距離が近いということと、唯一の趣味が読書だからです。趣味が読書とはいえ、すごい読書家というわけでもなく、好きなストーリーやその時に興味がある本を読む程度なのですが・・・

今は、長く利用させてもらっている感謝もこめて、読み聞かせボランティアを月1度やらせてもらっています。

乳幼児の親子さんからご年配の方々まで、一緒にお話や手遊びを交えながら聞いていただいています。笑顔と拍手は、こちらまでも嬉しいひと時であり、楽しさを味わっています。



1月貸出ランキング

一般書

- 1 火花／又吉直樹
- 2 九十歳。何がめでたい／佐藤愛子
- 3 コンビニ人間／村田沙耶香
- 〃 新参者／東野圭吾
- 〃 マスカレード・ナイト／東野圭吾
- 〃 ラプラスの魔女／東野圭吾
- 〃 陸王／池井戸潤
- 8 祈りの幕が下りる時／東野圭吾
- 〃 虚ろな十字架／東野圭吾
- 〃 嫌われる勇氣／岸見一郎 他多数

児童書

- 1 のりものつみき／よねづゆうすけ
- 2 バムとケロのおかいもの／島田ゆか
- 3 しろくまちゃんのほっとけーき／わかやまけん
- 4 くれよんのくろくん／なかやみわ
- 5 おしくら・まんじゅう／かがくいひろし
- 〃 新13歳のハローワーク／村上 龍
- 〃 バムとケロのそらのたび／島田ゆか
- 8 おつきさまこんばんは／林 明子
- 〃 おばけのてんぷら／せなけいこ 他多数

AV資料

- 1 安曇野市から見える日本百名山／あづみ野ビデオクラブ
- 〃 借りぐらしのアリエッティ／米林宏昌監督
- 〃 黒部の太陽／熊井 啓監督
- 〃 剣客商売 SPECIAL 母と娘と／小野田嘉幹監督
- 〃 まあだだよ／黒澤 明監督
- 〃 魔女の宅急便／角野栄子原作／宮崎 駿監督
- 7 鬼平犯科帳／古今亭志ん朝 他多数

中央図書館から

本のソムリエ(職員)おすすめ本

一般書 『べ切本』 左右社編集部／編



表紙

著名作家たちも締め切りに追われていた!?
締め切り前日にならないと、やる気が出ない人。そもそも締め切り日を守る気がない人。一方で原稿を頼まれてからすぐに書いてしまう人。編集者とのやり取りや、笑ってしまうような

言い訳など。明治から現在にいたる作家たち90人の締め切りにまつわるエッセイ・日記・手紙などが記載されています。

児童書 『いしゃがよい』

さくら せかい／さく 福音館書店



表紙

ある日エンさんは、やまでパンダの子をみつけます。ファンファンとなづけて、育てることにしました。からだのよわいファンファンを、じてんしゃにのせて、ひとやまこえ、

ふたやまこえ、いしゃがよい。
かわいくて、ほのぼのとしたお話です。大人のかたも、ぜひどうぞ。

第158回芥川賞・直木賞決定!

芥川龍之介賞

- 若竹千佐子 『おらおらでひとりいぐも』
石井 遊佳 『百年泥』

直木三十五賞

- 門井 慶喜 『銀河鉄道の父』

あづみ野FM

毎週土曜日 12:25 放送

ビブリア・マルシェ

本のソムリエ(司書)が、おすすめ本とイベントを紹介。
今月3日は中央図書館、17日は明科図書館の予定です。



返本

※編集後記※

四字熟語に「読書三到(さんとう)」という語があることを知りまして。広辞苑(第7版)には「読書の法は心到・眼到・口到にあり」と。美術史研究家の千田敬一さんは「心を集中(心到)、よく見て(眼到)、一所懸命に音読(口到)せよ」といって、読書に三到を要する(想)に「三到」を添えて、納得です。



編集・発行・お問い合わせ



- 中央図書館 ☎84-0111
豊科図書館 ☎71-4022
三郷図書館 ☎76-3078
堀金図書館 ☎72-3601
明科図書館 ☎62-1122

図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます)
<http://www.city.azumino.nagano.jp/site/tosho>